

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100124		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームきずな2階		
所在地	福島県田村郡小野町大字谷津作字高山3-5		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある総合病院と緊急時に24時間365日救急搬送を受け入れていただけるように医療協定を結んでいるため安心してお過ごしいただけます。 ・定期的な防災訓練や救急救命訓練を実施し、災害時にも対応できるよう備蓄品の管理をし万が一の際にも対応できるよう備えています。 ・入居者様の笑顔を一番に考え、外出ができなかつたり思うように面会ができない日々でも塞ぎこんでしまうことのないように日常生活の中でのレクリエーションや行事を積極的に取り組み楽しみを見つけ出すことができるよう支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「笑顔と頑張り」をモットーとして一日の中で一回は入居者様に声を出して笑っていただけるような関わりを持つように心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の訪問理容を利用したり、馴染みのお店から出前を取ることで外出が難しい状況でも慣れ親しんだ雰囲気を作れるように工夫している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の特別養護老人ホームや訪問介護サービスなどの事業所と定期的に情報を共有することで今後求められるサービスについてお互いに相談できる関係づくりを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響もありなかなか行えていない状況ではあったが、開催時期に資料を作成し、アンケートや広報誌を送付させていただくことで入居者様のホームでの様子や雰囲気をお伝えしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの入居状況や入居者様の様子などを定期的に情報を共有している。また、ホーム内での取り組みも広報誌を通してお伝えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目に見える身体拘束はもちろんのこと、目に見えない拘束「スピーチロック」に関してもホーム内の研修や会議を通して再確認している。また、職員同士でも気づいたことがあれば都度声掛け合いながら業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルスの影響により、研修がなかなか行えていない状況ではあるがホーム内で勉強会を行っている。業務の中で不適切ケアを行っていないか職員同士で確認し合い改善するように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきている状況ではあるが、まだ研修に参加できる状況ではないため各自学ぶ時間を設けるように声をかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には各項目ごとに理解していただけたかを確認しながら時間をかけてゆっくり説明をしている。また、解約の際にも疑問や不明な点はないかを都度確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様に意見やこうしてほしいという要望があればお伺いして、一つ一つできることから対応、改善するように心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者面談を実施してホームの現状を把握している。また、職員の面談を定期的に行うことで職員の現状を把握するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人に役割を担うことで職員の向上心を高めて、やりがいのある職場環境で働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響によって研修が行えない中で、毎月法人により研修内容がメールで届くため、定期的に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者を通して近隣の介護サービス事業所とはサービスの提供ができるようにお互いの情報を共有している。また、感染対策を取りながら少人数参加の勉強会に参加してサービスの向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所して間もない時は1日でも早くホームの生活に慣れていただけるようにコミュニケーションを多く取りながら不安なことを少しでも取り除けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学時からご家族様の思いをお聞きしている。入居者様の様子や変わったことがあればこまめに様子を報告し安心して利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様が理解しやすいようにサービスについて説明をし、必要に応じて地域包括支援センターへ相談し協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活歴を知って、その方を尊重しながら昔の話や得意なことなどを聞いて、できることを見つけて一緒に行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の些細な変化でもご家族様と連絡を取り情報を共有している。何かあればこちらで判断するのではなくご家族様の意見を伺い対応するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策として感染予防用のシートを設置し短時間ではあるものの、近隣の方や馴染みの方との面会でお話ができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性や性格、関係を考慮しホールの席の移動を行い、出身地が近い方の昔話ができるようになど配慮している。また、話が伝わらない場合にはスタッフが仲介に入ることによって円滑にコミュニケーションが図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内の方はお会いする機会もあるため、お互いに声を掛け合ったりしている。また、越境の方は手紙や電話でその後の近況を聞くなどして関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の話すことや行動に意味を見出し、何を訴えたいのか汲み取れるように努力をしてご本人様本位のサービスができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りや前回利用していた施設のフェイスシートなどを活用し、なるべくこれまでの生活と変わらず落ち着いて過ごせるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おひとりおひとりの過ごし方に合わせてその方ができることをケース会議などで共有し日々の変化にも対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは面会や電話、毎月のアンケートでご意見を伺っている。また、ケース会議や日々の話し合いで職員の意見を聞きサービス計画に反映し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に「会話」を大切にして毎日の様子や心身の状態を個別記録に記入し気づきやその時の対処法などを共有し介護計画に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の際に移動が難しくなってきたりの方の介護タクシーの提案などご本人様とご家族様のニーズに柔軟に対応するように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の前までは町のボランティアの方を社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携を図り来ていただいていたが現在は感染予防対策のため実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の協力を得て今まで通院していた病院へ受診をされている。急病の時は主治医に電話で指示を受けるなど良好な関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算がないホームなので近隣の施設の看護師資格のある方に入居者様の既往歴、現状の病気の情報を共有し緊急時に指示を受けることができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換を行い早期の退院ができるように努めている。また、病院主催の研修に参加し病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関する意向を書面で説明確認しているが、重度化した場合などにご家族様の考えが変化する可能性もあるためその際には再確認するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一階事務所にAEDを設置して定期的な講習を受けている。急変時や事故発生時にすべての職員が対応できるように月に一度訓練を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	小野町から配布されているハザードマップをもとに定期的に防災訓練を実施し消防や警察の方とも連携を図っている。職員全員が対応できるようにハザードマップは目につきやすい場所に掲示している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的な言葉遣いには常日頃から注意して入居者様の尊厳を大切にしている。また、職員間でも声掛けや対応の仕方では気になるところはお互いに指摘し合いながら改善に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で簡単なものでも意思決定できる機会を設けて、本人様の思いや希望を気軽に伝えてくださるような雰囲気づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の尊厳を大切に常に入居者様にどのように過ごしたいかお伺いを立てながらその方のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用してその方の好みの髪形に散髪していただいている。また、その人らしい自由な服装をしていただいている。汚れや髪に乱れがあった場合には声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	行事を開催する際には入居者様に希望を伺い、季節に合った食事を作ったり、馴染みのある飲食店から出前を取るなどして懐かしい味を楽しんでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが考えられたチルド食を提供している。水分摂取量が少ない入居者様にはその方が好んでいる飲み物を提供して少しでも摂取していただけるように声をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、介助が必要な方には一緒に口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保っている。また、義歯を使用している方には声掛けをして毎晩外していただき、ポリドントで洗浄をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるようおやつ前後や食事の前後など定期的に声掛けを行っている。必要な際には手引きなどでトイレ誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、その方の排泄状況を把握することで便秘の症状に早期に気づくことができ迅速に対応できている。また、便秘症な方には水分補給や歩行運動を進めて、改善できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に配慮しながら、入居者様が入りたい時間帯などを伺い希望に沿えるような入浴介助を実施している。腰痛持ちの方で入浴を好まない方にはシャワー浴で温まっていたりするように対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調を使用して室温や湿度を定期的に確認をしている。また、衣類や寝具での調節をして快適に過ごしていただけるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬記録を作成し薬の内容や効果、副作用に関して理解し、受診の際に薬の変更があった場合には申し送りをして情報を共有している。また、服薬介助に入る際は日付や名前の確認など、基本的なことも気を付けて介助に入っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中おやつの後などに、風船遊びやことわざ遊びをして体を動かしていただいている。また、歌が好きな入居者様もいらしゃるのでYouTubeで演歌などを流して一緒に歌ったりして楽しませている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策を心掛けて外出できる時期を見極めて、4月の花見や11月の紅葉狩り等に少しずつバス外出ができるようにしている。また、定期受診のためご家族様と外出される際には簡単なドライブや外食をする機会を設けていただけるようお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの影響でなかなか外出ができないため、希望があった場合には管理しているお小遣いからお金をお預かりし買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの希望があった場合にはご家族様からの了解を得てから電話対応をしている。希望があった際にはお手紙のほうも対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気、手すりの消毒などを行い感染症対策を行っている。また、共有スペースであるリビングが入居者様にとって過ごしやすい環境になるように季節感のある彩りを取り入れて飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でテレビを見ている方がいれば隣に寄り添いながら一緒に過ごしている。また、塗り絵や刺し子などの趣味を持っている方はリビングで楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	今までご自宅で使用していたこたつや椅子、座布団などの馴染みのあるものをお持ちいただくことで慣れない環境でも少しずつ安心した生活を送ることができている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の身体機能に応じて必要な個所に手すりを設置することで安心・安全に移動ができるように支援している。		